

令和 5 年 6 月 14 日現在

機関番号：11501
 研究種目：基盤研究(C)（一般）
 研究期間：2019～2022
 課題番号：19K00728
 研究課題名（和文）日本語がほとんどできない外国出身保護者と幼稚園・保育園とのやりとりに関する研究

 研究課題名（英文）A Study on Interaction between Foreign Parents with Little or No Japanese Language Ability and Kindergartens and Nursery Schools

 研究代表者
 内海 由美子（Utsumi, Yumiko）

 山形大学・学士課程基盤教育院・教授

 研究者番号：20292708
 交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 1,000,000円

研究成果の概要（和文）：日本語教育だけでなく、保育・幼児教育の分野での、外国出身保護者を対象とした研究論文や調査報告の収集を行った。外国出身保護者を対象としたアンケート調査と、幼稚園・保育園の保育士を対象とした調査は、新型コロナウイルス感染症の流行の終息が見えないため、断念した。外国出身保護者が園とやりとりする際の日本語使用を支援するサイト「連絡帳を書こう！」のポルトガル語版とタイ語版のページを作成し、サイト全体の見直しを行った。ベトナム出身保護者の急増を考えると、ベトナム語版のページの作成が急務と思われたが、日本で子育て経験のあるベトナム出身翻訳者にアクセスすることができなかった。

研究成果の学術的意義や社会的意義
 外国につながる子どもに対する支援は、近年、急速に研究成果が蓄積されているが、外国出身保護者に対する支援、とりわけ、保護者に必要な日本語習得支援は非常に少ない。保護者が能動的に園とのやりとりに関与し、自分の思いを伝え、自信を持って子育てができるようになるためには、このような研究と支援は急務であり、本研究は独自性があると言える。本研究の成果によって、外国出身保護者が園とのやりとりに自信を深め、自分の手で子育てしているという実感が持てれば、保護者の精神的な安定が得られると期待される。これは外国につながる子どもの生活・学習環境を整えるという点でも大きな意味を持つものと思われる。

研究成果の概要（英文）：We collected research papers and survey reports targeting foreign parents in the fields of childcare and early childhood education as well as Japanese language education. The questionnaire survey targeting foreign parents and the survey targeting nursery school teachers in kindergartens and nursery schools were abandoned because the end of the outbreak of the new coronavirus infection was not in sight. Portuguese and Thai versions of the "Renrakucho wo kako!" website, which supports the use of Japanese when parents of foreign origin communicate with preschools, were created, and the entire website was reviewed. Given the rapid increase in the number of Vietnamese parents, it seemed urgent to create a Vietnamese-language version of the page, but we were unable to access Vietnamese translators who had experience raising children in Japan.

研究分野：日本語教育学

キーワード：外国出身保護者 幼稚園・保育園 日本語支援 やりとり 連絡帳 エンパワーメント

1. 研究開始当初の背景

日本における外国人住民の増加と多様化は進む一方である。幼稚園・保育園（以下、「園」と記す）も例外ではなく、日本語がほとんどできない外国出身保護者とのやりとりに苦悩する園は少なくない。現場では行政が派遣する時限付きの通訳を活用したり、お便りの作成に翻訳アプリを使ったり日付部分のみを書き換えたりする等、対応に苦慮する様子が伝えられている（毎日新聞「今春入園者、半数が外国人」2018年8月14日付）。

2017年に改訂された文部科学省「幼稚園教育要領」の「幼稚園教育要領解説1」では、「日本語の習得に困難のある幼児」に対する配慮の必要性と、その幼児の「家庭との連携」の重要性に関する記述が加えられている（文部科学省2018:122-123）。また、厚生労働省「保育所保育指針2」でも、2017年度の改訂において、「外国籍家庭など、特別な配慮を必要とする家庭の場合には、状況等に応じて個別の支援を行うよう努めること。」（厚生労働省2017:57）とされているおり、政府も外国出身保護者への支援の必要性を認めていることがわかる。

外国出身保護者をめぐる研究は、この10年でその成果の発表が増えつつある。保育の領域では、保育園や保育士を対象とした調査から育児支援の現状と課題を扱ったものがある。日本語教育の領域では、幼稚園・保育園のお便りの日本語を分析したものがある。しかし外国出身保護者に焦点を当て対象とした研究は非常に少ない。

2. 研究の目的

本研究は、日本語がほとんどできない外国出身保護者と、幼稚園・保育園とのやりとり（口頭コミュニケーション・書き言葉コミュニケーション）について、その実態と問題点を明らかにすること、緊急性・重要性の観点からやりとりの重み付けを行うことを目的とした。その結果を受けて、外国出身保護者に必要な支援のあり方、特に、保護者自身による発信に対する支援のあり方を探る。

外国につながる子どもに対する支援は、近年、急速に研究が行われ成果が蓄積されているが、外国出身保護者に対する支援、とりわけ、保護者に必要な日本語習得支援は非常に少ない。保護者が能動的に園とのやりとりに関与し、自分の思いを伝え、自信を持って子育てができるようになるためには、このような研究と支援は急務であるが、現状ではその蓄積は少ない。この点で本研究は独自性があると考えた。

本研究の成果によって、外国出身保護者が園とのやりとりに自信を深め、自分の手で子育てしているという実感が持てれば、保護者の精神的な安定が得られると期待される。これは外国につながる子どもの生活・学習環境を整えるという点でも大きな意味を持つものと思われる。

3. 研究の方法

研究開始段階で計画した方法は次の、である。

園に対するアンケート調査から、やりとりの内容を網羅するとともに、緊急性・重要性によって内容の項目を分類し、保護者が発信するうえで支援が必要とされる項目の重み付けを行う。

それらの項目について、日本語使用の負担を下げること、実際使用による日本語習得をも視野に入れることを念頭に、支援の方策を検討する。

外国出身保護者とのやりとりに経験したことのある保育者（幼稚園教諭・保育園保育士）に対してインタビュー調査を行い、支援の方策の有効性を検証する。

これらの詳細は下記のとおりである。

・アンケート調査の調査項目とフォーマットの作成 予備調査として、保育者数名に対するインタビューを行い、その結果から、アンケートの調査項目を検討する。アンケートでは、外国出身保護者と園とのやりとりに関して、その内容を網羅的に収集することと、保育者が緊急性・重要性をどのように捉えているかを明らかにすることを目的とする。アンケートの形態に関しては、これまでの研究活動から、スマートフォンやタブレット等で回答できるWebアンケートが、回収数を確保するために非常に有効であることがわかっている。そこで、Webアンケートの形態でアンケート調査のフォーマットを作成し、完成させる。Webアンケートでは、翌年度に実施予定のインタビュー調査について説明し、連絡先を記入してもらうことでインタビューに対する協力者を募る。

・被調査者の選定と依頼、およびアンケート調査の実施

外国出身保護者の比率、出身国のバラエティを考慮して、調査を依頼する園を選定し、そこに所属する保育者に対する依頼を開始する。依頼にあたっては、WebアンケートのQRコードを付した依頼文を作成し、園に送付する。並行して、さらに調査対象となる園の選定とそこへの依頼を継続する。

・アンケート結果の集計と分析

Webアンケートの結果を集計し、必要な統計処理を施し結果を分析する。アンケート調査で得られた結果をもとに、やりとり内容の項目化と分類を行う。それらの緊急性・重要性から重みづけ

を行い、支援が必要なやりとり内容を明らかにする。

・支援の方策の検討

支援が必要なやりとりに関して、日本語がほとんどできない外国出身保護者を前提に、どのような方策が有効で現実的なのかを、これまでの研究成果を参考に検討し、リスト化する。

・インタビュー調査の準備（調査項目の検討、被調査者の選定と依頼）

上記で作成したリストをもとに、インタビュー調査の調査項目を決定する。Web アンケートで募った協力者から被調査者を選び、依頼する。・インタビュー調査の実施

対面あるいは電話等によりインタビューを実施し、その音声資料を収集する。

・結果のデータ化とその分析

インタビューの音声資料を文字化し、支援の方策の有効性という観点から結果を分析する。

・研究全体のまとめ

以上の結果をもとに、日本語がほとんどできない外国出身保護者に対する支援の項目についてまとめ、支援の方策を提案する。支援の方策を具体化するための準備にも着手したい。

4. 研究成果

2019 年度は、全国の状況を把握するため、日本語教育だけでなく、保育・幼児教育における研究論文や調査報告書の収集を行った。幼稚園・保育園の現場からは外国出身保護者とのやりとりに関するノウハウを求める声が高まり、保護者支援と、支援者支援の必要性が大きくなっていることがわかった。調査については、まず、外国出身保護者を対象とした Web アンケートの内容を決定し翻訳を進めている。なるべく多様な背景の外国出身保護者に協力依頼ができるよう、研究チームのネットワークを通して調査対象者を探しているところである。園に対するアンケート調査の内容については、研究チームで調査方法、調査内容について検討を開始した。まずは園を訪問すること、園の先生方に直接研究について説明し聞き取り調査への協力を依頼すること、同時に園生活の実態を観察することが大切ではないかということになった。しかしながら新型コロナウイルスの感染拡大の影響により、再考を余儀なくされた。

2020 年度は、引き続き、保育・幼児教育における研究論文や調査報告書の収集を行い、外国出身保護者が子どもの教育に関与することが多くの国で課題となっていることを改めて認識した。さらに、日本語教育のみならず、保育・幼児教育の分野での研究実績が急増していることがわかった。2021 年 3 月 6 日に開催された子どもの日本語教育研究会では、パネル「多文化の子どもたちの育ち・キャリア」に登壇し、保育・幼児教育の研究者と、子どもたちの育ちやキャリア形成支援への保護者の関与について情報交換と提言を行った。調査については、外国出身保護者を対象とした Web アンケートの内容を決定し翻訳を完了した。園に対するアンケート調査の内容については、調査方法、調査内容について検討を行ってきたが、新型コロナウイルス感染拡大の影響によって、幼稚園・保育園への訪問を断念せざるを得ない状況となった。引き続き、研究者のネットワークを活用して、外国出身保護者にオンラインで調査協力を呼びかけていきたいと考えている。

2021-22 年度は、引き続き、保育・幼児教育における研究論文や調査報告書の収集を行った。そこから、保育・幼児教育の分野での研究実績がさらに増加しているものの日本語教育との連携はほとんど見られないことがわかった。日本語教育の分野では、外国出身保護者と学校とのやりとり、外国人保護者の地域参加における実践研究の蓄積が見られた。

2022 年 3 月には新潟県国際交流協会の依頼で、幼稚園・保育園の保育士、日本語学習支援のボランティアを対象とした講座を実施した。また、分担者の澤の所属する東北文教大学で、幼児教育を学ぶ学生を対象に、外国出身保護者の抱える困難について考える機会を得た。このような領域横断的な実践は今後も継続させたいと考えている。

調査については、外国出身保護者を対象とした Web アンケートの内容を決定し翻訳を完了していたものの、新型コロナウイルス感染の影響が継続しており、保育園・幼稚園の協力は得られず保護者にもつながることができなかった。そこで、外国出身保護者が園とやりとりする際の日本語使用を支援するサイト「連絡帳を書こう」のポルトガル語版とタイ語版のページを作成するとともに、サイト全体の見直しを行った。ベトナム出身保護者の急増を考えると、ベトナム語版のページの作成が急務と思われたが、日本での子育て経験のあるベトナム出身翻訳者にアクセスすることができなかった。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計2件（うち査読付論文 1件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 1件）

1. 著者名 内海由美子	4. 巻 第4号
2. 論文標題 多文化の子どもたちを支える地域の支援体制 - 今後の展開に向けて -	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 子どもの日本語教育研究	6. 最初と最後の頁 25-30
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 澤恩嬉	4. 巻 11
2. 論文標題 語りの談話における引用ストラテジー 引用標識「みたいな」と「って」を中心に	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 東北文教大学・東北文教大学短期大学部紀要	6. 最初と最後の頁 25-31
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計1件（うち招待講演 0件/うち国際学会 1件）

1. 発表者名 澤恩嬉
2. 発表標題 語りの談話における発話末のヘッジ表現について
3. 学会等名 2020年度韓国日語日文学会冬季学術国際大会（国際学会）
4. 発表年 2020年

〔図書〕 計1件

1. 著者名 咲間 まり子	4. 発行年 2020年
2. 出版社 かもがわ出版	5. 総ページ数 96
3. 書名 保育者のための 外国人保護者支援の本	

〔産業財産権〕

〔その他〕

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究 分担者	澤 恩嬉 (Sawa Eunhee) (50389699)	東北文教大学・その他部局等・准教授 (31503)	

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究 協力者	薄井 宏美 (Usui Hiromi)		
研究 協力者	角南 北斗 (Hokuto Sunami)		

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------